Yamagata Prefectural
University of
Health Sciences

成人慢性期看護学実習要項

山形県立保健医療大学

保健医療学部　看護学科

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2022

目　　次

Ⅰ．実習目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅱ．実習目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅲ．実習方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

Ⅳ．実習記録　・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

Ⅴ．実習評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

Ⅵ．個人面談　・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

Ⅶ．その他・注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・　9

Ⅷ．連絡先　・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

資料　成人慢性期看護学実習における看護技術の水準
実習評価表
レポート作成について

成人慢性期看護学実習　（３単位）

Ⅰ．実習目的

慢性の健康障がいとともにある成人とその家族とのかかわりを通して、看護の対象を理解するとともに、既習の知識・技術を用いて問題解決的思考を展開し、科学的根拠に基づく看護実践を提供するための基礎的能力を養う。

Ⅱ．実習目標

１．慢性的な病とともにある人・家族とのかかわりを通して、看護における援助関係を形成できる

１）受け持ち患者・家族とコミュニケーションを取りながら、信頼関係を築くことができる

２）受け持ち患者のライフスタイルと生活環境を理解し、その人らしい生活のあり方を考えることができる

３）受け持ち患者の治療や看護を受けることに対する思いを受けとめ、意思決定を尊重することができる

４）受け持ち患者に提供しようとする看護援助とその方法について説明することができる

５）健康障がいによって生じがちな社会的不利益（就労生活、格差、差別や偏見など）について理解し、擁護する態度・行動について考えることができる

２．慢性的な病の病態、検査、治療過程および、生活に及ぼす影響について理解し、看護過程を展開することができる

１）受け持ち患者の病態生理・検査、治療経過、合併症、病状悪化の要因について説明できる

２）受け持ち患者の現在の機能障害の程度、治療の内容について説明できる

３）受け持ち患者の検査、治療に伴う生活上の規制について説明できる

４）機能障害や疾病のコントロールのための生活上の規制が、受け持ち患者の心理・社会・文化的側面に与える影響を説明できる

５）受け持ち患者の情報を客観的に記述・分類でき、情報の解釈・分析ができる

６）受け持ち患者のセルフマネジメント力（知識、技術、意欲、身体機能、サポートシステム、自己効力感など）を客観的に評価できる

７）受け持ち患者の身体・心理・社会・文化的観点からの情報を統合して全体像を描き、看護問題を抽出できる

８）受け持ち患者の発達課題、ソーシャルサポート、セルフマネジメント力・疾病受容のレベルを考慮した看護援助の方法を考案できる

９）受け持ち患者の生活環境とセルフケア能力を考慮した援助計画を工夫できる

10）受け持ち患者の価値観や信条・考え方を受容し、看護計画を考案できる
11）受け持ち患者の身体・心理・社会・文化的特徴をふまえて科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる
12）受け持ち患者の安全・安楽を考慮した援助が実践できる
13）援助のタイミングを考慮できる
14）実施した援助を客観的にみつめ、批判的かつ論理的に吟味して看護計画を評価できる

3．慢性的な病とともにある人・家族の個々の人生設計に沿ったセルフケア支援について考えることができる
1）受け持ち患者のセルフケア能力のアセスメントと支援方法について説明できる
2）受け持ち患者の自己概念、セクシュアリティ、役割などに慢性の病とともにあることが、どのように影響しているかについて述べることができる
3）受け持ち患者の自己管理、症状マネジメント、疾患管理、コンプライアンスについて説明できる
4）受け持ち患者・家族の QOL について、患者・家族の立場でとらえ、述べることができる
5）慢性疾患患者の療養生活支援のための社会保障制度および社会資源の活用について説明できる

4．慢性的な病とともにある人・家族への援助の観点から、チーム医療について理解できる
1）慢性・回復期に特有の検査・治療の実際を学び、看護の専門的役割について考えることができる
2）関連部門・関連職種間の連携について知り、チームで行う治療やケアを患者・家族の立場からとらえた上で、これからの連携および看護職としてのあり方、チームの一員としての自己について考えることができる

5．看護実践における自己の行動を振り返り、看護者としてのあり方や看護観を深め、自己の課題を明確にできる
1）自己の看護実践を、カンファレンス等を通して客観視し、よりよい看護の創造に向けて、看護者としてのあり方や、自らの看護観について表現することができる
2）自己の看護実践を振り返り、文献等を用いて、論理的に記述できる
3）看護実践における自己の学習課題を明確化し、課題達成に向けた主体的な取り組みができる

Ⅲ．実習方法

１．対象

１）原則として慢性期・回復期にある成人患者とその家族を対象に実習を行う

２）受持ち患者の看護過程を展開する（１例以上）

３）関連部門での治療・検査に伴う援助の見学を行う

２．実習期間

３週間（臨地実習配置表を参照）

３．実習時間

8:30～16:00

４．実習場所

１）県立中央病院

５階東病棟（循環器内科）　５階西病棟（血液内科、歯科口腔外科）

６階東病棟（外科、消化器内科、糖尿病・内分泌代謝内科、腎臓内科）

７階西病棟（脳神経内科、脳神経外科）

関連部門（外来・各検査室・内視鏡室・透析室・栄養指導室・リハビリ室等）

２）公立置賜総合病院

５東病棟（血液・糖尿病内科、泌尿器科）

リハ栄養

３）篠田総合病院

3 病棟（脳神経内科・脳神経外科）

7 病棟（回復期リハビリテーション病棟）

8 病棟（回復期リハビリテーション病棟）

リハ栄養

４）矢吹病院

透析療法

５．学生配置表　（臨地実習配置表を参照）

６．事前学習　＊レポートは実習指導者に提出する前に教員に提出し確認を受けること

13．関連部門の見学について　１）～６）参照のこと

７．基本スケジュール

	（月）	（火）	（水）	（木）	（金）
第1週	透析療法実習	リハ栄養実習	【AM】 病棟オリエンテーション 情報収集 【PM】 フィジカルアセスメント演習	情報収集・分析 アセスメントシート作成 ← ケース CF（患者紹介）→	情報分析～統合 アセスメントシート作成
	（月）	（火）	（水）	（木）	（金）
第2週	問題の明確化 アセスメントシート完成 関連図作成 ← ケース CF（指導者・教員）→	問題の明確化 関連図完成 看護計画立案へ	計画に基づく実施 看護計画立案	計画に基づく実施 看護計画追加・修正 ← ケース CF（指導者・教員）→	計画に基づく実施 看護計画追加・修正
	（月）	（火）	（水）	（木）	（金）
第3週	計画に基づく実施 看護計画追加・修正	計画に基づく実施 看護計画追加・修正	計画に基づく実施 看護計画追加・修正	計画に基づく実施 看護計画追加・修正 【PM】院内最終CF （指導者・教員）	【AM】学内　全体 CF 【PM】学内 実習のまとめ 個人面談 記録提出（16時まで）

８．一日の基本スケジュール

別紙配布資料（病棟の流れと留意点）参照のこと

９．透析療法実習

１）実習目的

血液透析療法を受ける患者・家族への看護を学ぶ

２）実習目標

①血液透析療法に関する基礎知識（腎機能、透析の種類、血液透析機器、ダイアライザー、透析液、ドライウェイト、合併症など）について知る

②ブラッドアクセス（シャント、非シャントの種類・管理方法）について理解する

③維持血液透析を受ける患者・家族の看護の実際を理解する

④維持血液透析を受ける患者・家族の日常生活を理解する

⑤維持血液透析を受ける患者・家族の心理・社会的情報について理解する

⑥チーム医療の重要性を理解する

３）実習方法

①日程：各クールの原則１週目月曜日　8：30～16：00

②場所：矢吹病院

③配置：別途配置表配布

④内容：治療見学、講義（透析療法、食事療法、看護等）

10.　リハ栄養実習

１）実習目的

成人慢性期看護学実習の一環として、リハ栄養の実際について知る

２）実習目標

①リハ栄養の概念について理解する

②回復期にある患者への実践的なアセスメントの視点を理解する

③回復期リハビリを行う患者の活動量と栄養状態を関連づけてアセスメントできる

④回復期リハビリを行う患者の食事療法とフレイル、サルコペニア予防を可能にするケアの実際を理解する

⑤栄養補助食品を利用する患者・家族の視点から、食品の選択について理解を深める

⑥回復期リハにおける病院間連携およびチーム医療の重要性を理解する

３）実習方法

①日程：各クールの原則１週目火曜日　8：30～16：00

②場所：篠田総合病院、公立置賜総合病院

③配置：別途配置表配布

④内容：リハ職・栄養職からみたリハ栄養とその実際（講義）

亜急性期病棟における早期離床（ベッドサイドリハ見学）

在宅移行に向けた嚥下リハと栄養補助食品の選択（講義）

回復期リハ病棟における他職種連携の実際（摂食嚥下の援助の見学）

栄養補助食品の実際について・補助食品紹介（講義）

11. フィジカルアセスメント（1 週目水曜日）

１）演習目的

受け持ち患者の健康状態を理解するために必要なフィジカルアセスメントの方法を学ぶ

２）演習方法

①聴診：心音、呼吸音、腹部

②視診：対光反射、瞳孔不同など

③触診：腹部、足背動脈など

④その他：バイタルサイン、血糖測定など

12. 患者指導

１）指導計画は、事前に十分に検討し、実習指導者と教員に確認を受ける

２）パンフレット等作成時は、下書きの段階で実習指導者と教員に確認を受ける

３）実施前に教員立ち会いのもと、グループ内でリハーサルを行う